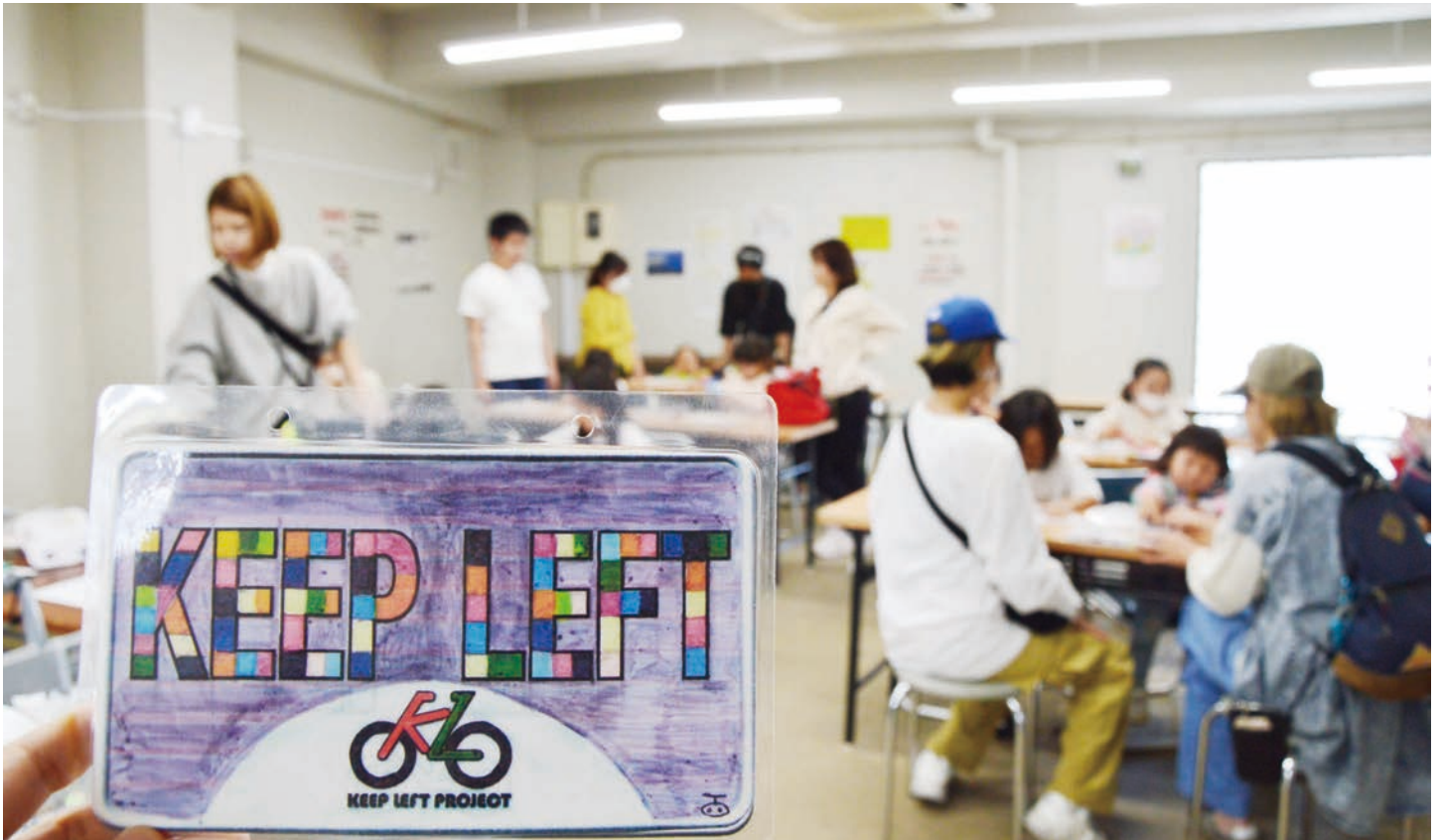




F-wave

藤沢市市民活動支援施設情報誌「エフ・ウェーブ」

特集：プレートから広がる安全の輪



4月29日、辻堂海浜公園の交通公園レクチャールームにてKEEP LEFT PROJECT（キープレフトプロジェクト）によるワークショップが行われました。「KEEP LEFT（左側通行の意）」と書かれた台紙に子どもたち一人一人が絵を描き、色を塗りラミネートし、自分だけのプレートを作ります。そうしてできたプレートを自分の自転車のカゴにつけ、藤沢、茅ヶ崎のまちを走っています。

ヘルメットの着用が努力義務化されたことで、自転車の安全な乗り方について関心が高まっている今日この頃、湘南地域で交通安全の啓発に取り組む団体、KEEP LEFT PROJECTの代表南八重さ

んにお話を伺いました。

ワークショップは、団体のメンバーは参加する子どもたち一人一人に、「自転車で道路を走る時、右側か左側かどちら側を走るか知っていますか？」と問いかけから始まります。帰り際には「どうもありがとう。これつけて、左側を走ってね。」と送り出していました。これは、参加者に楽しかった経験とともにKEEP LEFTの意味を知って帰ってもらおうというもの、また親子で参加しているお母さん、お父さんたちの意識を高めてもらえると考えているとのことです。（つづく）



プレートから広がる安全の輪

KEEP LEFT PROJECT ではプレートをつくる、あるいは買ってつけてもらうことで、交通ルールの啓発活動を行っています。団体の立ち上げとプレートの誕生には南八重さんの体験がきっかけとなっているそうです。

「私が自転車に乗っている時、見通しの悪い曲がり角で、右側を猛スピードで走っていた自転車と衝突しそうになったんです。事故にはなりませんでしたが、危険な運転であることは明らかで、『自転車は左側でしょ!』と叫びました。それに対して返ってきた言葉は謝罪ではなく『うるさい!』でした。」この出来事から南八重さんは、もやもやした気持ちが拭えなかったと言います。



「言葉で伝えることの難しさを感じました。お互いに嫌な思い出にもなってしまったと思うので、誰もが気持ちよく、物事を伝える方法はないか」と考えたんです。「私にできること…それは、デザインの力! シンプル(最低限)なルール(約束)で相手を思いやることで心地よく暮らせるのではないか。デザインはコミュニケーション手段の一つなんです。」と熱く語ります。こうしてできたのが KEEP LEFT プレートでした。ちなみに現在、プレートはイベントに参加して製作するか、販売協力店等で購入できます。団体としての活動はプレートの販売から始まり、



辻堂海浜公園はじめ、各所でワークショップの実施、全国で開催される自転車利用環境向上会議や地域イベントに参加するなど活動を広げています。

取材した当日、交通公園を訪れていた多くの子どもたちとその保護者の方々が、「何をやってるんですか?」と会場に次から次へと顔をみせていました。こうした地域に根付いた活動があったらまたそれを続けているからこそ、県下に広がる活動となり得たのだと感じました。

これまで、ワークショップの開催回数は108回、累計2100名の方がワークショップでプレートを製作しました。販売協力店等で購入した人を含めると大勢の方がこのプレートをつけて通りを走っていることになります。普段乗っている自転車にプレートをつけて走る、それだけで団体の活動を応援することにもなります。“安全に楽しく自転車に乗ってほしい”というメッセージが込められた KEEP LEFT プレート、ぜひ手に取ってみてはいかがでしょうか。

(取材と記事作成: 佐久間)

団体紹介

KEEP LEFT PROJECT

設立: 2015年1月

代表: 南八重智子

連絡先: plate@aloha-chigasaki.jp

Web: <https://www.keepleft.pro/>



自転車利用者が自らKEEP LEFTのプレートをつけ、自転車の左側通行を心がけると共に他の自転車利用者にそれを促すことで、自転車利用環境の向上につながる事業です。

プレートを作るワークショップ、自転車交通ルールの勉強会・講習会、他、この会の目的を達成するために必要な活動を行っています。

ワークショップは、地域のイベントや辻堂

海浜公園の交通公園で定期的に開催中。

KEEP LEFTプレートは販売協力店等で販売中です。



5月は藤沢市ミライカナエル活動サポート事業の募集があり、支援施設にもご相談が多く寄せられました。

施設のウェブサイトでも様々な助成金情報を発信しており、下半期や来年度の助成金募集もまだまだ控えています。今回は、助成金申請にあたって特に注意すべき点をお伝えします。

1. 募集者の意図を理解する

助成金を提供する団体や機関は、特定の社会的な目的や課題に取り組む団体を支援するために助成金を提供しています。まず、助成金を募集している団体の意図を理解することが重要です。募集要項やガイドラインを詳しく読み、助成金の目的や優先項目、審査基準を理解しましょう。これによって、団体の活動内容が助成金の要件と一致するかどうかを把握できます。

また、過去の助成実績を見ることから、募集者の意図や採択されやすい

内容を推測することができます。

2. 記述内容には一貫性を

助成金の申請書類では、団体の活動計画や目標、予算などを明確に記述する必要があります。申請書類の記述内容には一貫性が求められます。つまり、団体や事業の活動目標や予算、実施計画などに齟齬がないことが重要です。また、過去の実績や成果も具体的に示すことで、審査委員に対して団体の実績をアピールすることができます。記述内容は明確で具体的に、論理的な流れを持たせるように心掛けましょう。

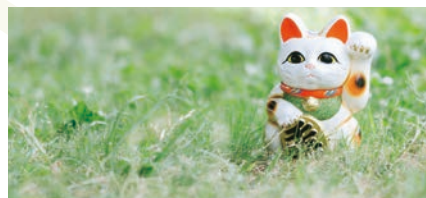
3. 予算作成は正確に

予算は団体の活動実施計画を具体化するために不可欠な要素です。予算作成の際には、具体的かつ正確な数字を用いることが重要です。経費項目や金額の算定方法を明確にし、妥当性や適切性を示すことが求められます。また、

助成金の目的に即した予算編成を行い、資金の使い方を説得力のある形で説明しましょう。審査では、予算の適切性や財務面の安定性も評価されます。

実際に申請するにあたっては、必要書類も忘れずに確認しましょう。また、締め切りまで余裕があれば、提出書類に不足があっても募集者がその旨ご連絡をくれることも多いです。余裕を持って提出することで、提出そのものが無効になることを防ぐことができます。

藤沢市市民活動支援施設でもご相談承りますので、お気軽にお問合せ下さい。(せ)



データ主義とデザイン思考を組み合わせる

データ主義(Data-driven)とデザイン思考(Design Thinking)は、組織運営において異なるアプローチや方法論を提供する概念です。

データ主義は、データや分析結果に基づいて意思決定を行い、組織の戦略や運営を指針として進めるアプローチです。データ主義では、客観的なデータや事実を重視し、データから洞察を得て意思決定を行います。データ主義は、活動戦略の策定やサービス開発、マーケティング戦略など、データが重要な役割を果たす場面で有用です。データ主義の特徴は、客観性と効率性に重点を置くことです。例えば、WEBの閲覧履歴のデータ分析を通じてターゲットの行動傾向を把握し、精度の高いターゲティングを実現することや、イベントなどの参加者データを分析し、傾向を把握し、効果的な広報戦略を立案する。などが考えられます。

一方、デザイン思考は、人間中心の視点から問題解決に取り組むアプローチです。デザイン思考では、受益者のニーズや課題を理解し、創造的なアイデアの発想から、試行や実験などの実践的な手法を通じて、新たな価値を創出し、受益者の視点を重視する場面で活用されます。デザイン思考の特徴は、創造性と共感性に焦点を当てることです。

新しい企画の開発において、受益者の意見や要望をヒアリングし、試行や実験的な活動を通じて、受益者が求め

る機能や活動を具現化することや、最近行政の施策によく見られる、受益者と共に課題解決に向けたワークショップを実施しながら、企画や施策を具現化していく手法として用いられています。

NPOをはじめとする市民活動団体は、デザイン思考が得意ではないでしょうか。そこにデータ主義を導入することで、過去の実績や実践の成果から、効果の検証を導き出し、継続的に運用することで、効果的な意思決定や創造的な問題解決が実現できるでしょう。近年、ビジネスの手法を取り入れたデータ主義が得意な市民活動団体も増えてきていますが、そこに創造性や先駆性を取り入れることで、社会的な課題の解決策を導き出すことができるでしょう。

データ主義とデザイン思考は、それぞれ異なる視点や手法を提供しますが、組織の目的や課題に応じて、両方のアプローチを組み合わせることが大切です。藤沢市で募集のあった、ミライカナエル事業はその要素を組み合わせたもので、叶えようとするミライをデザイン思考で創造し、データ主義で組み上げ、企画に反映する。今年もたくさんの応募があり、選考が始まります。原資には限りがありますので、全ての活動を支援することはできないのかもしれませんが、しかしながらそのすべての活動は、実践知に基づく創造的な活動です。想うミライをカナエルため数多くの活動が実行されることを願ってやみません。(て)

なぜなに

NPO

vol.167



inspiration

講座・イベントの

ごあんない

イベント

日時

■プラザ de カフェ ゼロから始めるスマートフォン

6月25日(日) 10:00~12:00

■マネジメント講座「ゼロから始める!集客力アップのためのTwitter運用術」

6月25日(日) 13:30~15:30

■ミライカナエル活動サポート事業公開プレゼンテーション

7月1日(土) 13:00~

NEW!

支援施設からのお知らせ

■プラザ de カフェ ゼロから始めるスマートフォン

スマートフォンの基本操作・セキュリティを学ぶことで、気軽にコミュニケーションをとる楽しさや、市や公民館事業の情報を得るための手法を学びましょう!

日時:6月25日(日) 10:00~12:00

会場:六会公民館2階 第1談話室

料金:無料

講師:藤沢市市民活動支援施設アドバイザー 林純氏

定員:20名



■藤沢市市民活動推進計画の中間見直しが行われました

藤沢市では「藤沢市市民活動推進計画」を定めており、現在の計画は、「市民活動の息づくまち 誰もが個性の輝きを放つ未来へ」を市民活動推進ビジョンに掲げ、7か年の計画として2019年4月に策定されました。この計画の中間年である2022年度に、残り3年度の基本施策等について市民活動推進委員会で検討され、中間見直しが行われました。第4期藤沢市市民活動推進計画(中間見直し版)は、藤沢市のホームページからご覧いただけます。



■マネジメント講座

「ゼロから始める!集客力アップのためのTwitter運用術」

昨年大好評だったTwitter講座。

イベントの集客、会員の募集、ボランティアの募集で定員数が毎回集まるようにするための広報力の向上を目的とした広報力をつけるため、ファン作りを意識した運用の方法と、SNSフォロワーを数人単位から増やしていくためのコツを知り実践することを目指します。

日時:6月25日(日) 13:30~15:30

会場:市民活動推進センター・オンライン

料金:1,000円(学生・18歳以下無料)

講師:鎌倉幸子氏 かまくらさちこ株式会社 代表取締役

対象:市民活動を行っている団体や個人、ご興味のある方

定員:30名



■ミライカナエル活動サポート事業公開プレゼンテーション

この事業は、3年後にどのような未来を作りたいかを具体的にイメージし、そのためにどのようなプロセスを踏んで事業または団体運営を展開するかを市民活動団体から企画提案いただき、審査選考を経て、実施する事業です。スタート支援コース・ステップアップ支援コースの書類審査(一次審査)を通過した団体が提案事業について公開プレゼンテーションを行います。

日時:7月1日(土) 午後1時から

会場:藤沢市役所 本庁舎5階 5-1会議室

傍聴者定員:10名(先着順。要事前申込)

問い合わせ先:市民自治推進課

TEL 0466-50-3516

FAX 0466-50-8407

E-mail fj-jiti-s2@city.fujisawa.lg.jp



発行:藤沢市市民活動支援施設

本館:市民活動推進センター

開館時間 9:00~22:00 火曜休館

※日・祝は9:00~20:00

〒251-0052

神奈川県藤沢市藤沢1031 アーバンセンター藤沢2F

TEL:0466-54-4510 FAX:0466-54-4516

Eメール:f-npoc@shonanfujisawa.com



分館:市民活動プラザむつあい

開館時間 9:00~17:00 月曜休館

〒252-0813

神奈川県藤沢市亀井野4-8-1 六会市民センター2階

TEL&FAX:0466-81-0222

Eメール:f-npoplaza@shonanfujisawa.com

編集:認定NPO法人 藤沢市市民活動推進機構(藤沢市市民活動支援施設 指定管理団体)

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております♪
サポーターも随時募集中です!